2026　年度 授業計画(シラバス)

学　科	社会福祉科	科目区分	専門分野	授業の方法	講義
科目名	こども文化	必修/選択の別	必修	授業時数(単位数)	30　(2)　時間(単位)
対象学年	1年	学期及び曜時限	後期	教室名	1202教室
担当教員	山口　佳奈	実務経験とその関連資格	NPO法人にて若者支援を担う。現在はSSWとして勤務／社会福祉士		

《授業科目における学習内容》

児童文化財や児童文化施設について学び、遊び・子育ての過去から現在までの現状を理解する。
こどもの成長過程・発達段階の理解を深める。
こども文化の講義・演習を通じて、こども達との適切なコミュニケーション技法を学ぶ。

《成績評価の方法と基準》

平常点(授業貢献度) 10点　　出席点　20点　　定期テスト　70点　　(100点満点)

《使用教材(教科書)及び参考図書》

参考図書:新版 児童文化(2016年発行)
授業ごとにレジュメを配布

《授業外における学習方法》

ボランティア活動などで関わるこども達と、積極的にコミュニケーションを図ってみて下さい。

《履修に当たっての留意点》

自身のこども時代を思い出し、当時の遊びや、玩具について調べてみて下さい。また、自宅に昔使用していた玩具やお育て用の道具類が現存している場合は、触れてみておいてください。

授業の方法		内容		使用教材	授業以外での準備学習の具体的な内容
第1回	講義形式	授業を通じての到達目標	児童文化の誕生から現在までの変遷について説明できるようになる。	レジュメ配布	自身のこども時代を思い出し、当時の遊びや、玩具について調べておく
		各コマにおける授業予定	こどもと児童文化		
第2回	講義形式	授業を通じての到達目標	どろんこ遊び、かくれんぼの意義について自身の考えを述べることができるようになる。	レジュメ配布	自身のこども時代を思い出し、当時の遊びや、玩具について調べておく
		各コマにおける授業予定	伝統的遊びの体験～どろんこあそび、かくれんぼ～		
第3回	講義形式	授業を通じての到達目標	遊びに託された意味について自身の考えを述べることができるようになる。	レジュメ配布	自身のこども時代を思い出し、当時の遊びや、玩具について調べておく
		各コマにおける授業予定	伝承遊びの体験～かるた、コマ回し、お手玉、おりがみ～		
第4回	講義演習形式	授業を通じての到達目標	「おもちゃとは何か」について自身の考えを述べることができるようになる。	レジュメ配布	自身のこども時代を思い出し、当時の遊びや、玩具について調べておく
		各コマにおける授業予定	おもちゃの歴史～伝統的おもちゃ、現代のおもちゃ～		
第5回	講義形式	授業を通じての到達目標	教育的玩具の有用性について説明できるようになる。	レジュメ配布	自身のこども時代を思い出し、当時の遊びや、玩具について調べておく
		各コマにおける授業予定	教育玩具、知育玩具		

授業の方法		内容		使用教材	授業以外での準備学習の具体的な内容
第6回	講義形式	授業を通じての到達目標	近代の子ども向けテレビの文化について説明できるようになる。	レジュメ配布	自身のこども時代を思い出し、当時の遊びや、玩具について調べておく
		各コマにおける授業予定	テレビ文化とキャラクター玩具		
第7回	講義形式	授業を通じての到達目標	大人までを魅了するゲーム文化の魅力や危うさについて自身の考えを述べることができるようになる。	レジュメ配布	自身のこども時代を思い出し、当時の遊びや、玩具について調べておく
		各コマにおける授業予定	テレビ文化からゲーム文化へ		
第8回	講義形式	授業を通じての到達目標	おやつ文化の変遷について説明できるようになる。	レジュメ配布	自身のこども時代を思い出し、当時の遊びや、玩具について調べておく
		各コマにおける授業予定	おやつの文化～お菓子の変遷～		
第9回	講義形式	授業を通じての到達目標	大人の価値観とこどもの価値観の違いについて説明できるようになる。	レジュメ配布	自身のこども時代を思い出し、当時の遊びや、玩具について調べておく
		各コマにおける授業予定	おまけの文化が起こした事件		
第10回	講義形式	授業を通じての到達目標	こどもが楽しいと感じる感覚を理解できるようになる。	レジュメ配布	自身のこども時代を思い出し、当時の遊びや、玩具について調べておく
		各コマにおける授業予定	名作アニメから感じ取る共通感覚		
第11回	講義形式	授業を通じての到達目標	こどもを魅了する歌の魅力について理解できるようになる。	レジュメ配布	自身のこども時代を思い出し、当時の遊びや、玩具について調べておく
		各コマにおける授業予定	童謡、みんなのうた		
第12回	講義形式	授業を通じての到達目標	紙芝居実践を通じて、こどもに対しての伝える力が身につく。	レジュメ配布	自身のこども時代を思い出し、当時の遊びや、玩具について調べておく
		各コマにおける授業予定	紙芝居実践		
第13回	講義形式	授業を通じての到達目標	こどもの成長過程に及ぼす幼年文学の意義について説明できるようになる。	レジュメ配布	自身のこども時代を思い出し、当時の遊びや、玩具について調べておく
		各コマにおける授業予定	幼年文学～童話と昔話～		
第14回	講義形式	授業を通じての到達目標	児童文化施設と児童文化活動の意義について説明できるようになる。	レジュメ配布	自身のこども時代を思い出し、当時の遊びや、玩具について調べておく
		各コマにおける授業予定	児童文化施設と児童文化活動		
第15回	講義形式	授業を通じての到達目標	こども達との適切なコミュニケーションが図れるようになる。	レジュメ配布	自身のこども時代を思い出し、当時の遊びや、玩具について調べておく
		各コマにおける授業予定	まとめ		

2026　年度 授業計画(シラバス)

学　科	社会福祉科	科目区分	専門分野	授業の方法	演習
科目名	点字	必修/選択の別	必修	授業時数(単位数)	30 (1) 時間(単位)
対象学年	1年	学期及び曜時限	前期　金曜3限	教室名	1202教室
担当教員	木戸口　恭子	実務経験とその関連資格	大阪府立盲学校で5年間勤務。その後、福祉系専門学校・大学等で講師を務める。		

《授業科目における学習内容》

視覚障害者についての基礎知識を理解し、コミュニケーション手段として基本的な点字が理解できる能力を養う

《成績評価の方法と基準》

実技試験70%　出席点20%　平常点(提出物)10%

《使用教材(教科書)及び参考図書》

教科書:初めての点訳(特定非営利活動法人全国視覚障害者情報提供施設協会)

《授業外における学習方法》

授業中に配布するプリントや教科書で復習

《履修に当たっての留意点》

1コマずつの積み重ねで理解を深めていくので、根気よく学習してください

授業の方法			内　容	使用教材	授業以外での準備学習の具体的な内容
第1回	演習形式	授業を通じての到達目標	関連医学の基礎知識を理解し、説明できるようになる。	教科書 配布資料	教科書の該当部分を読んでおく
		各コマにおける授業予定	「視覚」および「視覚障害」について 視覚障害を引き起こす眼疾患について講義		
第2回	演習形式	授業を通じての到達目標	視覚障害に起因する介護上の諸問題を説明できるようになる。	教科書 配布資料	教科書の該当部分を読んでおく
		各コマにおける授業予定	視覚障害者への支援の方法を場面に合わせて講義		
第3回	演習形式	授業を通じての到達目標	残存機能の特性と活用を説明できるようになる。	教科書 配布資料	教科書の該当部分を読んでおく
		各コマにおける授業予定	残存機能の特性を講義し、触覚を用いる点字へと導入する 点字の特徴について講義		
第4回	演習形式	授業を通じての到達目標	コミュニケーションの一つとしての点字について説明できるようになる。	教科書 配布資料	授業中の課題を仕上げ復習する
		各コマにおける授業予定	点字の清音の読み方演習		
第5回	演習形式	授業を通じての到達目標	点字の読みに習熟できるようになる。	教科書 配布資料	授業中の課題を仕上げ復習する
		各コマにおける授業予定	点字の濁点、拗音読み方演習		

授業の方法			内　　容	使用教材	授業以外での準備学習の具体的な内容
第6回	演習形式	授業を通じての到達目標	道具を正しく使い、点字が書けるようになる。	教科書 携帯用点字器	点字一覧表で表裏関係を 理解する
		各コマにおける授業予定	点字の表裏を理解し、点字器を用いて単語を書く		
第7回	演習形式	授業を通じての到達目標	点字の基本的な仮名使いができるようになる。	教科書 携帯用点字器	授業中の演習にミスがあれば修正し、復習する
		各コマにおける授業予定	点字に特有の仮名使いを理解した上で、点字で文章を書く		
第8回	演習形式	授業を通じての到達目標	文節分かち書きの基本を理解し、点字で書くことができるようになる。	教科書 携帯用点字器 演習プリント	授業中の演習にミスがあれば修正し、復習する
		各コマにおける授業予定	分かち書きの基本ルールに従って点字を書く		
第9回	演習形式	授業を通じての到達目標	間違えやすい分かち書きについて理解し、点字で書くことができるようになる。	教科書 携帯用点字器	授業中の演習にミスがあれば修正し、復習する
		各コマにおける授業予定	自立語の中で間違えやすい形式名詞・補助動詞・こそあどに気をつけて点訳する		
第10回	演習形式	授業を通じての到達目標	複合語の分かち書きを理解し、点字で書くことができるようになる。	教科書 携帯用点字器	授業中の演習にミスがあれば修正し、復習する
		各コマにおける授業予定	複合語の中の切れ続きを学び、複合語を含む文章を点訳する		
第11回	演習形式	授業を通じての到達目標	点字の数字(アルファベット)の書き方を理解し、点字で書くことができるようになる。	教科書 携帯用点字器 演習プリント	授業中の演習にミスがあれば修正し、復習する
		各コマにおける授業予定	点字での数字の読み書き、数を含む語の書き方を学ぶアルファベットに ついての概要を知る		
第12回	演習形式	授業を通じての到達目標	固有名詞の分かち書きを読めるようになる。	教科書 携帯用点字器	授業中の演習にミスがあれば修正し、復習する
		各コマにおける授業予定	人名・地名を正しく点訳する		
第13回	演習形式	授業を通じての到達目標	点字の記号類の使い方を説明できるようになる。	教科書 携帯用点字器	授業中の演習にミスがあれば修正し、復習する
		各コマにおける授業予定	基本的な記号類の使い方を学ぶ		
第14回	演習形式	授業を通じての到達目標	書き方の実際について理解し、点訳ができるようになる。	教科書 携帯用点字器	授業中の演習にミスがあれば修正し、復習する
		各コマにおける授業予定	見出しのついた文章、点訳の仕方を学ぶ		
第15回	演習形式	授業を通じての到達目標	点字の手紙文の書き方を知り、点字で書き上げることができるようになる。	教科書 携帯用点字器	授業を振り返り、しっかり復習しておく
		各コマにおける授業予定	点字用郵便について学び、振り返りを実施する		

2026　年度 授業計画(シラバス)

学　科	社会福祉科	科目区分	専門分野	授業の方法	講義
科目名	高齢者福祉制度論	必修/選択の別	必修	授業時数(単位数)	30　(2)　時間(単位)
対象学年	1年	学期及び曜時限	後期	教室名	1202教室
担当教員	松原　千加子	実務経験とその関連資格	社会福祉協議会、居宅介護支援事業所に勤務。現在、精神科クリニックにて相談援助業務に従事。 社会福祉士・精神保健福祉士		

《授業科目における学習内容》

誰もがいつかは高齢期を迎える。一人ひとりの生きてきたプロセスと社会の変容を追いながら、高齢者にとって暮らしやすい社会の実現のために、必要な制度・支援・人材について考える力を伸展させる。

《成績評価の方法と基準》

平常点(授業貢献度) 10点　　出席点　20点　　定期テスト　70点　　(100点満点)

《使用教材(教科書)及び参考図書》

授業ごとにレジュメを配布

《授業外における学習方法》

高齢者に対する支援の考え方や高齢者のイメージは、社会の変容とともに変わっています。身近なニュースも参考に、学修を深めてください。

《履修に当たっての留意点》

自分の住んでいる市町村の暮らしに役立つサービスについて、パンフレットやホームページを閲覧してみましょう。

授業の方法			内　容	使用教材	授業以外での準備学習の具体的な内容
第1回	講義形式	授業を通じての到達目標	少子高齢社会と暮らしへの影響について説明できるようになる。	資料配布とレジメ	厚生労働白書で、高齢化率や高齢者の健康状況について調べてみよう
		各コマにおける授業予定	高齢者の生活実態とその保障制度		
第2回	講義形式	授業を通じての到達目標	少子高齢社会と暮らしへの影響について説明できるようになる。	資料配布とレジメ	ライフサイクルと高齢者の就労や社会参加についての変容を予想しよう
		各コマにおける授業予定	高齢者の社会参加と就労について		
第3回	講義形式	授業を通じての到達目標	高齢者保健福祉の発展と理念を説明できるようになる。	資料配布とレジメ	養老院について調べてみよう
		各コマにおける授業予定	高齢者福祉の起源から老人福祉法成立まで		
第4回	講義形式	授業を通じての到達目標	高齢者保健福祉の発展と理念を説明できるようになる。	資料配布とレジメ	老人福祉法成立の背景を知ろう
		各コマにおける授業予定	老人福祉法の基本理念、具体的内容		
第5回	講義形式	授業を通じての到達目標	高齢者保健福祉の発展と理念を説明できるようになる。	資料配布とレジメ	老人医療の変遷について調べてみよう
		各コマにおける授業予定	高度経済成長期以降の高齢者保健福祉の動向		

授業の方法		内　　容		使用教材	授業以外での準備学習の具体的な内容
第6回	講義形式	授業を通じての到達目標	高齢化の進行と高齢者保健医療制度の変遷について説明できるようになる。	資料配布とレジメ	健康とは何か、その定義を調べてみよう
		各コマにおける授業予定	老人保健法の概要		
第7回	講義形式	授業を通じての到達目標	地方分権と福祉サービスの計画的な整備について説明できるようになる。	資料配布とレジメ	身近な社会資源を調べよう
		各コマにおける授業予定	高齢者保健福祉推進10ヵ年戦略（ゴールドプラン）の概要		
第8回	講義形式	授業を通じての到達目標	高齢者の住まい方の変容について説明できるようになる。	資料配布とレジメ	有料老人ホームについて調べよう
		各コマにおける授業予定	高齢者の住環境にかかわる制度		
第9回	講義形式	授業を通じての到達目標	自立支援にかかわる制度の変遷について説明できるようになる。	資料配布とレジメ	ユニバーサルデザインとバリアフリーの違いについて調べよう
		各コマにおける授業予定	バリアフリー新法の概要		
第10回	講義形式	授業を通じての到達目標	地域ネットワークについて説明できるようになる。	資料配布とレジメ	身近なニュースで、地域包括支援システムの取り上げられ方を調べてみよう
		各コマにおける授業予定	地域包括支援システムの概要		
第11回	講義形式	授業を通じての到達目標	利用契約に基づくサービス体系について説明できるようになる。	資料配布とレジメ	身近なニュースで、介護保険制度の取り上げられ方を調べてみよう
		各コマにおける授業予定	介護保険制度の基本的枠組み		
第12回	講義形式	授業を通じての到達目標	利用条件と各施設の特徴について説明できるようになる。	資料配布とレジメ	自分の地域で利用できる施設サービスを調べてみよう
		各コマにおける授業予定	介護保険法における施設サービス		
第13回	講義形式	授業を通じての到達目標	地域で暮らす高齢者を支援する組織と役割について説明できるようになる。	資料配布とレジメ	自分の地域で利用できる居宅サービスを調べてみよう
		各コマにおける授業予定	介護保険法における居宅サービス		
第14回	講義形式	授業を通じての到達目標	権利擁護のための、ネットワークについて説明できるようになる。	資料配布とレジメ	虐待の実態について、事例を通して学んでみよう
		各コマにおける授業予定	高齢者虐待とその防止の取り組み		
第15回	講義形式	授業を通じての到達目標	個別支援から地域支援のためのつながりづくりについて説明できるようになる。	資料配布とレジメ	地域課題への取り組み例を探してみよう
		各コマにおける授業予定	地域包括支援システムの概要		

2026　年度 授業計画(シラバス)

学　科	社会福祉科	科目区分	専門分野	授業の方法	講義
科目名	心理学の基礎	必修/選択の別	必修	授業時数(単位数)	30　(2)　時間(単位)
対象学年	1年	学期及び曜時限	後期	教室名	1202教室
担当教員	野元　颯馬	実務経験とその関連資格			

《授業科目における学習内容》

心理学の基礎知識を学び、人間の行動のメカニズムを理解できるようになること。
他者の意見を尊重しながら自身の意見を主張することができるようになること。

《成績評価の方法と基準》

筆記試験70%、出席点20%、平常点10%

《使用教材(教科書)及び参考図書》

決定版　面白いほどよくわかる！心理学　　西東社

《授業外における学習方法》

授業内容の予習と復習が必要

《履修に当たっての留意点》

積極的な授業参加
心理学と自身の日常生活との関連について意識すること

授業の方法		内容		使用教材	授業以外での準備学習の具体的な内容
第1回	講義形式	授業を通じての到達目標	人の思考の傾向を理解できるようになる。	テキスト、スライド、配布資料	教科書に目を通し、興味をもった点や分からない点を明らかにしておく
		各コマにおける授業予定	思考、判断についての授業①・ワーク		
第2回	講義形式	授業を通じての到達目標	人の思考の傾向とその仕組みを説明できるようになる。	テキスト、スライド、配布資料	教科書に目を通し、興味をもった点や分からない点を明らかにしておく
		各コマにおける授業予定	思考、判断についての授業②		
第3回	講義形式	授業を通じての到達目標	欲求・動機とは何かを説明できるようになる。	テキスト、スライド、配布資料	教科書に目を通し、興味をもった点や分からない点を明らかにしておく
		各コマにおける授業予定	欲求や動機の種類、その影響についての授業		
第4回	講義形式	授業を通じての到達目標	日常生活における原因帰属のはたらきを説明できるようになる。	テキスト、スライド、配布資料	教科書に目を通し、興味をもった点や分からない点を明らかにしておく
		各コマにおける授業予定	原因帰属についての授業		
第5回	講義形式	授業を通じての到達目標	他者を助ける行動と傷つける行動について説明できるようになる。	テキスト、スライド、配布資料	教科書に目を通し、興味をもった点や分からない点を明らかにしておく
		各コマにおける授業予定	攻撃・援助行動についての授業		

授業の方法			内　　容	使用教材	授業以外での準備学習の具体的な内容
第6回	講義形式	授業を通じての到達目標	信頼の仕組みとその効果を説明できるようになる。	テキスト、スライド、配布資料	教科書に目を通し、興味をもった点や分からない点を明らかにしておく
		各コマにおける授業予定	信頼についての授業とグループワーク		
第7回	講義形式	授業を通じての到達目標	リスクに対する認知と行動を説明できるようになる。	テキスト、スライド、配布資料	教科書に目を通し、興味をもった点や分からない点を明らかにしておく
		各コマにおける授業予定	災害とリスクについての授業		
第8回	講義形式	授業を通じての到達目標	コミュニケーションと個人間の社会的影響について説明できるようになる。	テキスト、スライド、配布資料	教科書に目を通し、興味をもった点や分からない点を明らかにしておく
		各コマにおける授業予定	コミュニケーションについての授業①		
第9回	講義形式	授業を通じての到達目標	言語コミュニケーション、非言語コミュニケーションについて説明できるようになる。	テキスト、スライド、配布資料	教科書に目を通し、興味をもった点や分からない点を明らかにしておく
		各コマにおける授業予定	コミュニケーションについての授業②		
第10回	講義形式	授業を通じての到達目標	態度変容と説得的コミュニケーションを説明できるようになる。	テキスト、スライド、配布資料	教科書に目を通し、興味をもった点や分からない点を明らかにしておく
		各コマにおける授業予定	説得についての授業①・ワーク		
第11回	講義形式	授業を通じての到達目標	態度変容と説得的コミュニケーションを説明できるようになる。	テキスト、スライド、配布資料	教科書に目を通し、興味をもった点や分からない点を明らかにしておく
		各コマにおける授業予定	説得についての授業②		
第12回	講義形式	授業を通じての到達目標	社会のリスクに対してどのようなコミュニケーションが行われているか説明できるようになる。	テキスト、スライド、配布資料	教科書に目を通し、興味をもった点や分からない点を明らかにしておく
		各コマにおける授業予定	リスクコミュニケーションについての授業		
第13回	講義形式	授業を通じての到達目標	心理療法の種類と内容を説明できるようになる。	テキスト、スライド、配布資料	教科書に目を通し、興味をもった点や分からない点を明らかにしておく
		各コマにおける授業予定	心理療法についての授業		
第14回	講義形式	授業を通じての到達目標	心理的障害とは何か説明できるようになる。	テキスト、スライド、配布資料	教科書に目を通し、興味をもった点や分からない点を明らかにしておく
		各コマにおける授業予定	心理的障害についての授業		
第15回	講義形式	授業を通じての到達目標	これまでの内容を理解し、説明できるようになる。	テキスト、スライド、配布資料	教科書に目を通し、興味をもった点や分からない点を明らかにしておく
		各コマにおける授業予定	まとめ		

2026　年度 授業計画(シラバス)

学　科	社会福祉科		科目区分	基礎分野	授業の方法	講義実習
科目名	情報科学Ⅰ		必修/選択の別	必修	授業時数(単位数)	30　(2)　時間(単位)
対象学年	1年		学期及び曜時限	後期	教室名	大阪ハイテク PCルーム
担当教員	BSC	実務経験とその関連資格				

《授業科目における学習内容》

この授業では、学生がコンピュータの基本操作に習熟することはもちろん、Officeソフトの利用だけにとどまらず、現代社会において必須となるデータ分析やAI技術の基礎を学ぶことを重視します。データの活用方法を学び、実践を通じて在学中および卒業後の情報処理スキル向上を図ります。

《成績評価の方法と基準》

出席(20%)、平常点(10%)、課題・小テスト点(70%)

《使用教材(教科書)及び参考図書》

「コンピュータキャリアトレーニング」※イーラーニングコンテンツ
対面授業、オンライン(ライブ)、オンデマンドの3つの授業形態(ハイフレックス型授業)で、テキストや動画を見ながら学生が独学できるようデザインされた教材です。講義は基礎分野と応用分野に分類されています。

《授業外における学習方法》

自宅等にインターネットにつながったPCがあれば、イーラーニングで自習できます。
欠席した場合は次の週までに課題を済ませて下さい。

《履修に当たっての留意点》

出席することが一番重要ですので、欠席しないように受講してください。

授業の方法			内　容	使用教材	授業以外での準備学習の具体的な内容
第1回	講義形式	授業を通じての到達目標	企業や施設が求める表計算ソフトの基本操作ができる	Excel基礎1 基本操作	イーラーニングテキストで講義の内容を確認しておくこと。
		各コマにおける授業予定	オートフィル/数式の作成/SUM関数/グラフ作成/印刷		
第2回	講義形式	授業を通じての到達目標	関数を駆使した資料を作成できる	Excel基礎2 数式と関数基礎	イーラーニングテキストで講義の内容を確認しておくこと。
		各コマにおける授業予定	割合を求める/相対参照と絶対参照/AVERAGE関数/COUNTIF関数/シートの操作		
第3回	講義形式	授業を通じての到達目標	グラフを駆使した資料を作成できる	Excel基礎3 グラフ基礎	イーラーニングテキストで講義の内容を確認しておくこと。
		各コマにおける授業予定	目的に応じたグラフ作成/グラフのレイアウト/行や列の挿入/グラフの編集		
第4回	講義形式	授業を通じての到達目標	データベース機能を理解し活用できる	Excel応用A データーベース	イーラーニングテキストで講義の内容を確認しておくこと。
		各コマにおける授業予定	データベースとは/データを並べ替える/フィルター/ウィンドウ枠の固定/大きな表を効率よく印刷する		
第5回	講義形式	授業を通じての到達目標	応用的な関数を活用できる1	Excel応用B 関数応用1	イーラーニングテキストで講義の内容を確認しておくこと。
		各コマにおける授業予定	RANK.EQ関数/SUMIF関数/TODAY関数/NOW関数/DATEIF関数		

授業の方法		内　　容		使用教材	授業以外での準備学習の具体的な内容
第6回	講義形式	授業を通じての到達目標	目的に合ったグラフを選択し、作成することができる	Excel応用D グラフ応用	イーラーニングテキストでこれまでの講義の内容を確認しておくこと。
		各コマにおける授業予定	折れ線グラフ/複合グラフ/100％積み上げグラフ/レーダー/スパークライン		
第7回	講義形式	授業を通じての到達目標	ブックを活用するさまざまな機能を理解し活用できる	Excel応用E ブックの活用	イーラーニングテキストで講義の内容を確認しておくこと。
		各コマにおける授業予定	作業グループ/セル参照（同一シート内）/セル参照（同一ブック内の別シート）/シート間の集計		
第8回	講義形式	授業を通じての到達目標	データを読み解くための基本的な知識を身につけて、適正かつ有効に活用できる	データリテラシー	イーラーニングテキストで講義の内容を確認しておくこと。
		各コマにおける授業予定	平均/中央値/最頻値/外れ値/欠損値/異常値/データの分類/相関/因果関係/疑似相関/不適切なグラフ表現		
第9回	講義形式	授業を通じての到達目標	身近なAIを知り、適正かつ有効に活用できる	AIリテラシー	イーラーニングテキストで講義の内容を確認しておくこと。
		各コマにおける授業予定	社会でのAI活用事例/AIでできること・できないこと/画像認識体験/AIの欠点や問題点/人とAIとの協働		
第10回	講義形式	授業を通じての到達目標	AIブームの背景を知り、実際に体験を通して理解することが	AI機械学習	イーラーニングテキストで講義の内容を確認しておくこと。
		各コマにおける授業予定	AIブームの歴史/ディープラーニング/教師あり学習・教師なし学習/予測・分類・クラスタリング/機械学習体験		
第11回	講義形式	授業を通じての到達目標	AIを使ってショート動画を作成できる(1)	ショート動画作成	イーラーニングテキストで講義の内容を確認しておくこと。
		各コマにおける授業予定	リール台本をCopilotで制作/Canvaで動画作成		
第12回	講義形式	授業を通じての到達目標	AIを使ってショート動画を作成できる(2)	ショート動画作成	イーラーニングテキストで講義の内容を確認しておくこと。
		各コマにおける授業予定	リール台本をCopilotで制作/Canvaで動画作成		
第13回	講義形式	授業を通じての到達目標	Forms活用1　アンケート作成	Forms活用1	イーラーニングテキストで講義の内容を確認しておくこと。
		各コマにおける授業予定	Microsoft Formsを使ったアンケートの作成方法を習得し、各自のアンケートを作成・配布できる		
第14回	講義形式	授業を通じての到達目標	Forms活用2　アンケート集計・分析	Forms活用2	イーラーニングテキストで講義の内容を確認しておくこと。
		各コマにおける授業予定	Microsoft　Formsのアンケート結果収集と分析ができる		
第15回	講義形式	授業を通じての到達目標	分析やAI活用に適したデータを取得から加工まで効率的に扱うことができる	データクレンジング	イーラーニングテキストで講義の内容を確認しておくこと。
		各コマにおける授業予定	データクレンジングとは/データクレンジングの具体例/データの種類/統計表における機械判別可能なデータ作成に関する表記方法（総務省　統計局）/データクレンジング実践（リスト修正）/クレンジングデータを使っての分析		

2026　年度 授業計画(シラバス)

学　科	社会福祉科		科目区分	基礎分野	授業の方法	講義
科目名	時事・情報力		必修/選択の別	必修	授業時数(単位数)	30　(2)　時間(単位)
対象学年	1年		学期及び曜時限	後期	教室名	1202教室
担当教員	小寺　利恵子	実務経験とその関連資格	人材育成の会社にて、病院・企業等の新入社員研修に従事し、専門学校等でサービス接遇・秘書・コミュニケーション・ビジネス文書・語彙読解検定を指導			

《授業科目における学習内容》

ニュース時事能力検定は、新聞やテレビのニュース報道を読み解き、活用する力を養い現代社会の出来事を多角的・公正に理解・判断し総合的な知識・思考力・判断力を養うことが出来る。

《成績評価の方法と基準》

筆記試験:70%　出席点20%　平常点10%

《使用教材(教科書)及び参考図書》

教科書:ニュース時事能力検定公式テキスト&問題集基礎編　毎日新聞出版

《授業外における学習方法》

毎日の新聞・テレビのニュース、現在世の中で起きていることに興味を持ち分からないことは調べ、ニュースを通して家族・友人と意見を交換しあい、社会とどのように関わって行くべきかを学ぶ。

《履修に当たっての留意点》

高校の公民・地理歴史などの学習、新聞やテレビの主要なニュースを現実の社会と関連付けて深め理解しましょう

授業の方法		内容		使用教材	授業以外での準備学習の具体的な内容
第1回	講義形式	授業を通じての到達目標	命の現場から(受動喫煙・ガン・不妊治療)について説明できるようになる。	テキスト	授業終了時に示す課題を実施しておくこと
		各コマにおける授業予定	ニュース時事能力検定に備えての講義		
第2回	講義形式	授業を通じての到達目標	自然災害と原発事故について(減災を目指す)説明できるようになる。	テキスト	授業終了時に示す課題を実施しておくこと
		各コマにおける授業予定	ニュース時事能力検定に備えての講義		
第3回	講義形式	授業を通じての到達目標	地球環境を守るには何をすれば良いかを説明できるようになる。	テキスト	授業終了時に示す課題を実施しておくこと
		各コマにおける授業予定	ニュース時事能力検定に備えての講義		
第4回	講義形式	授業を通じての到達目標	対立に揺らぐ世界(アメリカ・中国・ロシア)を説明できるようになる。	テキスト	授業終了時に示す課題を実施しておくこと
		各コマにおける授業予定	ニュース時事能力検定に備えての講義		
第5回	講義形式	授業を通じての到達目標	難民に排外主義の壁(反難民・反移民)容認できる・できないを説明できるようになる。	テキスト	授業終了時に示す課題を実施しておくこと
		各コマにおける授業予定	ニュース時事能力検定に備えての講義		

授業の方法			内　　容	使用教材	授業以外での準備学習の具体的な内容
第6回	講義形式	授業を通じての到達目標	平和な世界はいつ（見通せない世界の核軍縮）について説明できるようになる。	テキスト	授業終了時に示す課題を実施しておくこと
		各コマにおける授業予定	ニュース時事能力検定に備えての講義		
第7回	講義形式	授業を通じての到達目標	過去問題を通して検定の流れを理解し、説明できるようになる。	過去問題	授業終了時に示す課題を実施しておくこと
		各コマにおける授業予定	ニュース時事能力検定に備えて現在までを振り返り、過去問題を演習し理解する		
第8回	講義形式	授業を通じての到達目標	過去問題を通して検定の流れを理解し、説明できるようになる。	過去問題	授業終了時に示す課題を実施しておくこと
		各コマにおける授業予定	ニュース時事能力検定に備えて現在までを振り返り、過去問題を演習し理解する		
第9回	講義形式	授業を通じての到達目標	過去問題を通して検定の流れを理解し、説明できるようになる。	過去問題	授業終了時に示す課題を実施しておくこと
		各コマにおける授業予定	ニュース時事能力検定に備えて現在までを振り返り、過去問題を演習し理解する		
第10回	講義形式	授業を通じての到達目標	過去問題を通して検定の流れを理解し、説明できるようになる。	過去問題	授業終了時に示す課題を実施しておくこと
		各コマにおける授業予定	ニュース時事能力検定に備えて現在までを振り返り、過去問題を演習し理解する		
第11回	講義形式	授業を通じての到達目標	天声人語（文章要約トレーニング）読解力が身につき、時事問題について説明できるようになる。	天声人語の資料	授業終了時に示す課題を実施しておくこと
		各コマにおける授業予定	天声人語の書き写しをして、世の中の様々なニュース・出来事を理解する		
第12回	講義形式	授業を通じての到達目標	天声人語（文章要約トレーニング）読解力が身につき、時事問題について説明できるようになる。	天声人語の資料	授業終了時に示す課題を実施しておくこと
		各コマにおける授業予定	天声人語の書き写しをして、世の中の様々なニュース・出来事を理解する		
第13回	講義形式	授業を通じての到達目標	日本の季節の行事について説明できるようになる。	年賀状の資料	これまでの授業を振り返り復習しておくこと
		各コマにおける授業予定	日本の様々な行事を理解する		
第14回	講義形式	授業を通じての到達目標	日本の季節の行事について説明できるようになる。	日本のしきたりの資料	これまでの授業を振り返り復習しておくこと
		各コマにおける授業予定	日本の様々な行事を理解する		
第15回	講義形式	授業を通じての到達目標	後期試験に備えての復習を実施し、合格基準点に到達できるようになる。	過去問題	これまでの授業を振り返り復習しておくこと
		各コマにおける授業予定	確認、まとめ		

2026　年度 授業計画(シラバス)

学　科	社会福祉科		科目区分	専門分野	授業の方法	講義
科目名	社会学と社会システム		必修/選択の別	必修	授業時数(単位数)	30　(2)　時間(単位)
対象学年	1年		学期及び曜時限	後期	教室名	1202教室
担当教員	大澤　裕司	実務経験とその関連資格	宝塚市福祉課情緒障害児療育施設任用ケースワーカー(1984～1985)、神戸生命倫理研究会(運営委員)における医療政策調査研究(1988～2014)			

《授業科目における学習内容》

4年次の国試合格レベルに備えた社会学の基本用語と主要な理論を理解する

《成績評価の方法と基準》

期末の筆記試験、平常点、出席点で成績判定する。

《使用教材(教科書)及び参考図書》

中央法規『最新・社会福祉士養成講座　社会学と社会システム』

《授業外における学習方法》

1. 翌週に習熟度を確認する小テストを行うので、教科書の該当範囲(1節)を復習する習慣をつける。
2. 家族や地域社会、国際関係に関するニュースに接して、社会学的な分析枠組をあてはめて考える習慣をつける

《履修に当たっての留意点》

抽象的な概念や細かな専門用語も多いので、実感を持てる分野を見つけて、社会学の広大な分野に少しずつでも分け入ってほしい

授業の方法			内　容	使用教材	授業以外での準備学習の具体的な内容
第1回	講義形式	授業を通じての到達目標	福祉と社会学、周辺領域との関連を把握できるようになる。	教科書、配布プリント	過去の国家試験に目を通してみる
		各コマにおける授業予定	国家試験の傾向分析と基礎演習		
第2回	講義形式	授業を通じての到達目標	ウエーバーの合理的行為・非合理的行為、パーソンズの主意主義的行為論、ブルデューのハビトゥス論について説明できるようになる。	教科書、配布プリント	小テストを意識した当日の復習、専門用語の習得
		各コマにおける授業予定	ウエーバー、パーソンズ、ブルデューについての講義		
第3回	講義形式	授業を通じての到達目標	構造論的役割論と発達論的役割論、社会的自我、役割葛藤について説明できるようになる。	教科書、配布プリント	小テストを意識した当日の復習、専門用語の習得
		各コマにおける授業予定	前回学習テーマの復習テストと講義		
第4回	講義形式	授業を通じての到達目標	集団の類型と機能、ウェーバーとマートンの官僚制論について説明できるようになる。	教科書、配布プリント	小テストを意識した当日の復習、専門用語の習得
		各コマにおける授業予定	前回学習テーマの復習テストと講義		
第5回	講義形式	授業を通じての到達目標	囚人のジレンマ、共有地の悲劇、モラルハザードとフリーライダー問題をもとに、社会的ジレンマについて自身の考えを述べることができるようになる。	教科書、配布プリント	小テストを意識した当日の復習、専門用語の習得
		各コマにおける授業予定	前回学習テーマの復習テストと講義		

授業の方法		内　　容		教科書、配布プリント材	授業以外での準備学習の具体的な内容
第6回	講義形式	授業を通じての到達目標	社会関係資本の重要性、社会資源に恵まれないマイノリティの周縁化と社会的包摂ついて自身の考えを述べることができるようになる。	教科書、配布プリント	小テストを意識した当日の復習、専門用語の習得
		各コマにおける授業予定	前回学習テーマの復習テストと講義		
第7回	講義形式	授業を通じての到達目標	家族社会学の基本用語、家族の類型と機能、世帯動向について説明できるようになる。	教科書、配布プリント	小テストを意識した当日の復習、専門用語の習得
		各コマにおける授業予定	前回学習テーマの復習テストと講義		
第8回	講義形式	授業を通じての到達目標	家族関係障害（DV、虐待）の背景、ステップ・ファミリーの課題について自身の考えを述べることができるようになる。	教科書、配布プリント	小テストを意識した当日の復習、専門用語の習得
		各コマにおける授業予定	前回学習テーマの復習テストと講義		
第9回	講義形式	授業を通じての到達目標	地域社会学の基本用語をおさえ、アーバニズムと郊外ニュータウン開発、インナーシティ問題について説明できるようになる。	教科書、配布プリント	小テストを意識した当日の復習、専門用語の習得
		各コマにおける授業予定	前回学習テーマの復習テストと講義		
第10回	講義形式	授業を通じての到達目標	マクロ社会学の視野を身につけ、社会変動論、ベル＆トフラーの産業社会論について説明できるようになる。	教科書、配布プリント	小テストを意識した当日の復習、専門用語の習得
		各コマにおける授業予定	前回学習テーマの復習テストと講義		
第11回	講義形式	授業を通じての到達目標	人口転換理論をおさえた上で、日本の少子化の要因、労働力人口の確保について自身の考えを述べることができるようになる。	教科書、配布プリント	小テストを意識した当日の復習、専門用語の習得
		各コマにおける授業予定	前回学習テーマの復習テストと講義		
第12回	講義形式	授業を通じての到達目標	社会階層と社会移動の基本用語を習得し、格差社会の実態、豊かさについて自身の考えを述べることができるようになる。	教科書、配布プリント	小テストを意識した当日の復習、専門用語の習得
		各コマにおける授業予定	前回学習テーマの復習テストと講義		
第13回	講義形式	授業を通じての到達目標	社会病理学の思考枠組、ベッカーのラベリング論、ゴフマンのスティグマ論について説明できるようになる。	教科書、配布プリント	小テストを意識した当日の復習、専門用語の習得
		各コマにおける授業予定	前回学習テーマの復習テストと講義		
第14回	講義形式	授業を通じての到達目標	グローバリズムとエスニシティに関する基本用語と思想、日本の入国管理政策と外国人問題について自身の考えを述べることができるようになる。	教科書、配布プリント	プレテストを持ち帰って調べ合い学習
		各コマにおける授業予定	前回学習テーマの復習テストと講義		
第15回	講義形式	授業を通じての到達目標	後期を通じての質問と包括的復習を実施し、国家試験合格基準レベルに到達できる。	教科書、配布プリント	プレテストを持ち帰って調べ合い学習
		各コマにおける授業予定	まとめ		

2026　年度 授業計画(シラバス)

学　科	社会福祉科	科目区分	専門分野	授業の方法	演習
科目名	手話	必修/選択の別	必修	授業時数(単位数)	30　(1)　時間(単位)
対象学年	1年	学期及び曜時限	後期	教室名	1202教室
担当教員	ろうあ会館講師	実務経験とその関連資格	大阪府・大阪市手話通訳者		

《授業科目における学習内容》

聴覚障害者を理解し、聴覚障害者のコミュニケーション方法を学ぶ。
聴覚障害者の日常生活の一助となる事を目的とする。

《成績評価の方法と基準》

実技を伴う授業なので、授業態度・実技試験を重視する。

《使用教材(教科書)及び参考図書》

「手話奉仕員養成テキスト　手話を学ぼう手話で話そう」

《授業外における学習方法》

関連書籍など適宜紹介する

《履修に当たっての留意点》

手話は聴覚障害者がもつ言語であり、コミュニケーションには欠かせない手段です。言いたい事を伝える、相手の言いたい事を理論しようとする、伝える事の大切さを学びます。

授業の方法			内　容	使用教材	授業以外での準備学習の具体的な内容
第1回	講義演習形式	授業を通じての到達目標	オリエンテーション・聴覚障害者とコミュニケーションについて学び、指文字を修得できる	テキスト	テキストを一読しておく
		各コマにおける授業予定	第3講座 初対面の挨拶を手紙で覚える・指文字で名前を表現する		
第2回	講義演習形式	授業を通じての到達目標	自己紹介を手話できるようになる①	テキスト	テキストの該当箇所を復習しておく
		各コマにおける授業予定	第1・2講座 表情・身振りの形を覚える		
第3回	講義演習形式	授業を通じての到達目標	自己紹介を手話できるようになる②	テキスト	テキストの該当箇所を復習しておく
		各コマにおける授業予定	第4講座 家族紹介		
第4回	講義演習形式	授業を通じての到達目標	自己紹介を手話できるようになる③	テキスト	テキストの該当箇所を復習しておく
		各コマにおける授業予定	第5講座 数を使って話す		
第5回	講義演習形式	授業を通じての到達目標	自己紹介を手話できるようになる④	テキスト	テキストの該当箇所を復習しておく
		各コマにおける授業予定	第6講座 趣味について話す		

授業の方法		内　　容		使用教材	授業以外での準備学習の具体的な内容
第6回	講義演習形式	授業を通じての到達目標	自己紹介を手話できるようになる⑤	テキスト	テキストの該当箇所を復習しておく
		各コマにおける授業予定	第9講座 住所を紹介		
第7回	講義演習形式	授業を通じての到達目標	自己紹介を手話できるようになる⑥	テキスト	テキストの該当箇所を復習しておく
		各コマにおける授業予定	第8講座 まとめ（自己PR）		
第8回	講義演習形式	授業を通じての到達目標	自己紹介を手話できるようになる⑦	テキスト	テキストの該当箇所を復習しておく
		各コマにおける授業予定	第9講座 自己紹介まとめ（質問に応える）		
第9回	講義演習形式	授業を通じての到達目標	自己紹介を手話できるようになる⑧	テキスト	テキストの該当箇所を復習しておく
		各コマにおける授業予定	第9講座 自己紹介まとめ（自己アピール）		
第10回	講義演習形式	授業を通じての到達目標	手話で話しかけることができるようになる①	テキスト	テキストの該当箇所を復習しておく
		各コマにおける授業予定	第7講座 住所を表す		
第11回	講義演習形式	授業を通じての到達目標	手話で話しかけることができるようになる②	テキスト	テキストの該当箇所を復習しておく
		各コマにおける授業予定	第10講座 一日の流れについて話してみる		
第12回	講義演習形式	授業を通じての到達目標	手話で話しかけることができるようになる③	テキスト	テキストの該当箇所を復習しておく
		各コマにおける授業予定	第11講座 一週間の流れについて話してみる		
第13回	講義演習形式	授業を通じての到達目標	手話で話しかけることができるようになる④	テキスト	テキストの該当箇所を復習しておく
		各コマにおける授業予定	第12講座 一ヶ月の流れについて話してみる		
第14回	講義演習形式	授業を通じての到達目標	手話で話しかけることができるようになる⑤	テキスト	テキストの該当箇所を復習しておく
		各コマにおける授業予定	疑問詞の表現　全体のまとめ		
第15回	講義演習形式	授業を通じての到達目標	手話で簡単なやり取りができるようになる。	テキスト	テキストの該当箇所を復習しておく
		各コマにおける授業予定	復習 全体の到着度の確認		

2026　年度　授業計画(シラバス)　　大阪保健福祉専門学校

学　科	社会福祉科	科目区分	基礎分野	授業の方法	講義
科目名	コミュニケーションスキル	必修/選択の別	必修	授業時数(単位数)	30　(2)　時間(単位)
対象学年	1年	学期及び曜時限	前期　水3限	教室名	1202教室
担当教員	小寺　利恵子	実務経験とその関連資格	人材育成の会社にて、病院・企業等の新入社員研修に従事し、専門学校等でサービス接遇・秘書・コミュニケーション・ビジネス文書・ニュース検定対策等を指導		

《授業科目における学習内容》

ものの見方や考え方の多様化が進んでおり、コミュニケーション力がますます重要度を増している。コミュニケーション力を高めるには、自己変革をする。人の気持ちを汲む力を高める。自分の気持ちや考えを効果的に伝えるコミュニケーション技法を身につけることが出来る。

《成績評価の方法と基準》

科目修了試験:70%　出席評価点20%　平常評価点10%

《使用教材(教科書)及び参考図書》

教科書:コミュニケーション　スキルアップ検定　・　関連資料配付

《授業外における学習方法》

人はコミュニケーションなしでは生きていけない。人との関係の中で生きていかなければならない人間にとって、コミュニケーションは重要な道具である。授業の中で学習したことを実生活の中でも積み重ねていくと、コミュニケーション力を向上させることが出来る。

《履修に当たっての留意点》

コミュニケーションの基本はツーウェイであり、一方的に話し、聴くワンウェイのコミュニケーションでは成立しません。ツーウェイのコミュニケーションを阻むものは、第一に送り手、受けて、双方の好き嫌いの感情、先入観です。第二に価値観が異なることです。それらをしっかり理解しましょう。

授業の方法			内　容	使用教材	授業以外での準備学習の具体的な内容
第1回	講義形式	授業を通じての到達目標	基本的な社会的スキルを学べば良好な人間関係を築くために必要であるということが理解できるようになる。	コミュニケーションスキルアップ検定	授業終了時に示す課題を実施しておくこと
		各コマにおける授業予定	社会的スキル。職業人の基本的なマナーを中心に、身につけるべき知識と技術について理解する。		
第2回	講義形式	授業を通じての到達目標	円滑なコミュニケーションを図るためには挨拶・正しい敬語が必要であると理解できるようになる。	コミュニケーションスキルアップ検定	授業終了時に示す課題を実施しておくこと
		各コマにおける授業予定	社会的スキル 職業人の基本的なマナーを中心に、身につけるべき知識と技術について理解する。		
第3回	講義形式	授業を通じての到達目標	電話応対・接客等は、最初の応対で会社の第一印象が決まるためこれらの知識と技術は、コミュニケーションをスムーズにするきっかけと理解できるようになる。	コミュニケーションスキルアップ検定	授業終了時に示す課題を実施しておくこと
		各コマにおける授業予定	社会的スキル 職業人の基本的なマナーを中心に、身につけるべき知識と技術について理解する。		
第4回	講義形式	授業を通じての到達目標	ビジネス文書は、正確・簡潔・明瞭に作成することが大切であると理解でき、また、作成できるようになる。	コミュニケーションスキルアップ検定	授業終了時に示す課題を実施しておくこと
		各コマにおける授業予定	社会的スキル。職業人の基本的なマナーを中心に、身につけるべき知識と技術について理解する。		
第5回	講義形式	授業を通じての到達目標	コミュニケーション＝伝え合って共有することだと理解し、説明できるようになる。	コミュニケーションスキルアップ検定	授業終了時に示す課題を実施しておくこと
		各コマにおける授業予定	コミュニケーションとは何かを理解する。		

授業の方法			内　　容	使用教材	授業以外での準備学習の具体的な内容
第6回	講義形式	授業を通じての到達目標	どのように話し、聴くことが望ましいのか、グループでの会話では何に気を付けなければならないのかを、具体的に理解できるようになる。	コミュニケーションスキルアップ検定	授業終了時に示す課題を実施しておくこと
		各コマにおける授業予定	基本的対話スキル。 対話を通してよいコミュニケーションをするための基本を学び理解する。		
第7回	講義形式	授業を通じての到達目標	円滑な人間関係を築くための、基礎となる5つの表現手段を理解し、説明できるようになる。	コミュニケーションスキルアップ検定	授業終了時に示す課題を実施しておくこと
		各コマにおける授業予定	自己表現スキル 人間関係を円滑にするための伝え方の基本と表現手段を理解する。		
第8回	講義形式	授業を通じての到達目標	人間関係が複雑な仕事を円滑にするための4つの表現手段を理解し、説明できるようになる。	コミュニケーションスキルアップ検定	授業終了時に示す課題を実施しておくこと
		各コマにおける授業予定	自己表現スキル。仕事上で必要される伝え方の基本と表現手段を理解する。		
第9回	講義形式	授業を通じての到達目標	顧客の望むことを自分のできる限り行う。それを自分の喜びとすることがサービスのすべてであり、サービスとは顧客満足度を高めるものだと理解し、説明できるようになる。	コミュニケーションスキルアップ検定	授業終了時に示す課題を実施しておくこと
		各コマにおける授業予定	サービスマインド 感動を与えるサービスとは自分自身が生き生きとサービスを提供することが基本であることを理解する。		
第10回	講義形式	授業を通じての到達目標	過去問題を通して検定の流れを説明できるようになる。	コミュニケーションスキルアップの過去問題	授業終了時に示す課題を実施しておくこと
		各コマにおける授業予定	9回の振り返りを過去問題を通して演習をし解答・解説をする。		
第11回	講義形式	授業を通じての到達目標	過去問題を通して検定の流れをより詳しく説明できるようになる。	コミュニケーションスキルアップの過去問題	授業終了時に示す課題を実施しておくこと
		各コマにおける授業予定	9回の振り返りを過去問題を通して演習をし解答・解説をする。		
第12回	講義形式	授業を通じての到達目標	過去問題を通して検定の合格基準をクリアできるようになる。	コミュニケーションスキルアップの過去問題	授業終了時に示す課題を実施しておくこと
		各コマにおける授業予定	9回の振り返りを過去問題を通して演習をし解答・解説をする。		
第13回	講義形式	授業を通じての到達目標	過去問題を通して検定の合格基準をクリアできるようになる。	コミュニケーションスキルアップの過去問題	授業終了時に示す課題を実施しておくこと
		各コマにおける授業予定	9回の振り返りを過去問題を通して演習をし解答・解説をする。		
第14回	講義形式	授業を通じての到達目標	コミュニケーションについて理解をし必要な知識、技能を学ぶことが出来たか振り返り、自身の考えを主観的に述べることができるようになる。	コミュニケーションスキルアップ検定	これまでの授業を振り返り復習しておくこと。
		各コマにおける授業予定	前期まとめ。9回までの振り返りを実施し、前期テストに備える。		
第15回	講義形式	授業を通じての到達目標	コミュニケーションについて理解をし必要な知識、技能を学ぶことが出来たか振り、客観的に説明できるようになる。	コミュニケーションスキルアップ検定	これまでの授業を振り返り復習しておくこと。
		各コマにおける授業予定	前期まとめ。9回までの振り返りを実施し、前期テストに備える。		